



## 気持ちの調整に時間がかかる児童に関する事例

事 例	気持ちの調整を図るための指導	
児童生徒 について	学部等	小学部
	障がい名等	知的障がい、自閉症
	生徒の主な 実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心の高いもの（ゲーム、制作など）については、友達と一緒に遊びたい思いが強い。</li> <li>・学年の教師や友達などとの関わりは少しずつ増えているが、自分の要求を一方的に伝え、指示の受け入れは難しいことがある。</li> <li>・放課後等デイサービス等は利用しておらず、家庭と学校との行き来のみで、交友関係が狭い。</li> <li>・他者との関わりをもとうとするが、その方法が十分に身に付いていない。</li> </ul>
	行動の見方 ・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理想自己と現実自己に大きな乖離があり、少しのミスや自分の思い通りにできないことでイライラし、体力的な疲れを理由に、大きな声で攻撃的な言葉を使ったり、人や物に当たったりする。</li> <li>・思考することをやめ、その場の状況と関係なく好きな活動（紙・段ボールでの制作）を行い気持ちの調整を図ろうとする。</li> </ul>
支 援 の 実 際 や 変 容 など	<p>〈学校に持ってきてはいけないものを持って来る場面〉</p> <p>自分からゲームやおもちゃ、人形などをかばんに入れ、持って来ることがある。持って来てはいけないことは知識として分かってはいるが、友達に自慢したい気持ちや、友達と遊びたい気持ちの衝動性を抑えることが難しく、学校に持って来てしまう。かばんから取り出して遊ぼうとしているときに「それは学校に持って来ないよ。」と教師から注意を受けると、大きな声で攻撃的な言葉を使ったり物や人に当たったりする。</p> <div style="text-align: right;"></div> <p><u>対応① クールダウンをしてから、気持ちを聞く。</u></p> <p>大きな声を出したり、物に当たったりしているときは教師の言葉が耳に入らないため、一人きりになれる状況にして距離や時間を置いてクールダウンを促す。その後で、「持って来ないよ。」とだけ伝えるのではなく、なぜ持って来てしまったのか、どうしたかったのか、などの気持ちを聞くようにする。</p> <div style="text-align: right;"></div> <p><u>対応② 気持ちを受け止め、いつ、どんなときなら遊べるのか教える。</u></p> <p>「自慢したい。」「一緒に遊びたい。」など、気持ちを聞いたうえで、いつ、どのようなときならできるか、代替手段を一緒に考える。放課後や休みの日などを促したことで納得し、「休みの日に一緒に遊ばない？」と友達を誘うことができたこともあった。</p> <p>〈1学期末における児童の変容〉</p> <p>○修学旅行時、宿泊先で友達と遊びたいという思いで学校にゲームを持って来ている姿が見られた。しかし、教師に注意を受ける前に、自分から保護者にゲームを返していた。</p> <p>→正しい行動ができたときには称賛をする。今後も教師とのやり取りを通して、相互に関わり合う素地を作るような対応を一貫して行うことで成功体験を増やしていく。併せて、家族や学級の友達以外の人と関わり合えるように、交友関係を広げるような環境に対する支援も行っていく必要があると考える。</p>	